

【対話形式の問題（中）】

下の文は、世界史の授業において「オランダの独立」について学んでいる様子をまとめたものである。先生と生徒（A、B）の対話文を読み、問いに答えなさい。

先生： 今日も授業を始めましょう。皆さんはオランダと聞くと何を思い浮かべますか。

生徒A： 日本と貿易をしていたと中学の歴史の授業で習った。

生徒B： ①カルロス 1 世の後を②フェリペ 2 世が継ぐ際に元々オーストリア領であったネーデルラントをスペイン領として相続したのだよね。

先生： 良いですね。オランダは大航海時代に発展を遂げたスペインから独立します。日本にも通商を求めやってきます。今回はこのオランダの歴史を学びましょう。

先生： 今のオランダとベルギーにあたるネーデルラントは先ほどBさんが言ってくれたように、16世紀にスペイン領となっていました。当時、ネーデルラントでは商工業の発展にともないネーデルラントの（ 1 ）派であり、ゴイセンと呼ばれた人々が多数生活していて、中継貿易などで栄えていました。

生徒A： そういえば、スペインはヨーロッパの中でもカトリックの割合が高い国だったね。

生徒B： そうだね。（1）派の人々がたくさんいる地域をカトリック教国のスペインが治めることには問題はなかったのかな。

先生： 実際、宗派の違いは問題を生むこととなります。具体的には当時のスペイン王フェリペ2世は、カトリック強制政策などの圧政を敷き、カルヴァン派を弾圧しました。それに対して独立運動が展開されます。フェリペ2世はそれを何とか抑えたいと思っただけです。どう抑えようと考えたのでしょうか。

生徒A： 国力を生かして軍を派遣して徹底的に弾圧をする。

生徒B： それか、現地に上手く手をまわして協力者を得て、独立運動をする側を追い込むとか。

先生： フェリペ2世も色々考えたことでしょう。実際には、フェリペ2世の弾圧は続きました。しかし、決してネーデルラントの（1）派たちは諦めませんでした。

生徒A： ③宗派の対立ってそこまで強い対立を招く問題なんだね。

先生： しかし、ネーデルラントの南部10州はカトリック教徒が多かったこともあり、途中で脱落し、スペイン領にとどまることを決めました。北部の7州はそれでもめげずに日本でオランダと呼ばれる由来にもなった（ 2 ）州を中心に（ 3 ）同盟を結成し、徹底抗戦を続けます。ここからはまさにオランダの独立戦争となるのです。

生徒A： 同じ宗派だったから、南部は北部よりカトリック政策を受け入れ易かったのかもね。

生徒B： ④ただ、全員がカトリック教徒ではなかったらろうし、つらい人もいたらろうな。

先生： 南部10州の離脱後も、独立を目指す北部7州は抵抗を続け、1581年に（ 4 ）国として独立を宣言します。なぜ争いの最中に独立の宣言をするのでしょうか。

生徒A： 味方の団結を促したり、この時代は宗派での対立が多いから、スペインに敵対する国の支援を引き出したり、ということがありえるかもしれないね。

生徒B： 例えば、⑤エリザベス 1 世が女王であったイギリスが思いつくな。

生徒A： イギリスの国教会は新教側にあたるものね。

生徒B： 確か、エリザベス1世の前の女王（ 5 ）はフェリペ2世との結婚によってカトリックの復活を図り混乱を招いたよね。でもその治世はすぐ終わったのだったね。

先生： そうですね。実際には、エリザベス1世はフェリペ2世の思惑に対し、1559年には（ 6 ）法を制定してイギリス国教会の確立に努めました。また、オランダの独立には支援をします。こうして、オランダは⑥1609年には休戦条約を結び、事実上の独立を勝ち取りました。正式には【 A 】で【 B 】とともに独立が承認されることになりました。

生徒A： スペインの支配を脱した後のオランダはどうなったのかな。

- 先生： ⑦東インド会社の下、中継貿易で莫大な利益を得ました。首都（ 7 ）は国際金融の中心となり、17世紀前半に⑧学芸も盛んな全盛期を迎えます。
- 生徒B： でも、全盛期ってことは、そのあとは衰退していったということだね。
- 先生： そうです。特にイギリスのクロムウェルが1651年に（ 8 ）法を制定したことで、中継貿易に打撃が加わり、衰退へ向かうこととなります。今日の授業はここまでになります。お疲れさまでした。

- 問1 対話文中の（ 1 ）～（ 8 ）に入る語句を答えなさい。
- 問2 対話文中の【 A 】および【 B 】に入る適切な語句の組み合わせとして正しいものを下の（ア）～（エ）から選び、記号で答えなさい。
- （ア）【 A 】：ウエストファリア条約 【 B 】：ギリシア
 （イ）【 A 】：パリ条約 【 B 】：スイス
 （ウ）【 A 】：ウエストファリア条約 【 B 】：スイス
 （エ）【 A 】：パリ条約 【 B 】：ギリシア
- 問3 下線部①について、この王の神聖ローマ皇帝としての名前を答えなさい。
- 問4 下線部②について、フェリペ2世が行ったことを述べた文として正しいものを下の（ア）～（エ）から1つ選び、記号で答えなさい。
- （ア）ポーランド分割を行った。 （イ）クリミア半島に進出した。
 （ウ）ポルトガルを併合した。 （エ）アルザスを領有した。
- 問5 下線部③について、以下の対話は、AさんとBさんの授業の後の会話の一部である。会話文の途中の【 】に入る内容を考え、20字以上25字以内で答えなさい。

A： そういえば、三十年戦争も宗教をめぐる対立が絡んだ戦争だったね。
 B： 旧教側でオーストリアやスペイン、新教側でイギリスやオランダが参戦したね。
 A： あれ、でも三十年戦争ってフランスも参戦していたけど、フランスはカトリック教徒の多い国だから、オーストリア側について参戦したのだったっけ。
 B： いや、フランスは三十年戦争には新教国側で参戦したよ。
 A： それは何でだったっけ。
 B： 三十年戦争の対立軸として、一つは旧教と新教の対立があるのは確かだね。ただ、フランスが新教国側で参戦したように、これとは別に宗教的対立をこえたフランスの王家とオーストリアの王家の対立、つまり【 】の対立もあった戦いであったと言えるね。
 A： 授業でもそんなこと言っていたな。Bさんのおかげで思い出せたよ。たまには真面目に世界史の授業内容について話してみるのも悪くないね。

- 問6 下線部④について、下の資料はBさんの指摘に対し気になったAさんによる南部のある都市についての状況について調べたメモである。メモの中の【 A 】および【 B 】に入る語句として正しい組み合わせを（ア）～（エ）から選び、記号で答えなさい。

今日のベルギーを中心とした地域である【 A 】の商業都市であり、15世紀以降に繁栄を迎えた都市である【 B 】は1585年になるとスペイン軍に占領される。この都市の毛織物業者や商人は北部へ亡命してしまう。結果としてこの都市は衰退を迎えた。

- （ア）【 A 】：シャンパーニュ地方 【 B 】：アントウェルペン
 （イ）【 A 】：フランドル地方 【 B 】：アントウェルペン
 （ウ）【 A 】：シャンパーニュ地方 【 B 】：ブリュージュ
 （エ）【 A 】：フランドル地方 【 B 】：ブリュージュ

- 問7 下線部⑤に関連して、エリザベス1世のように、多くの君主が活躍した。ヨーロッパの君主

とその功績について述べた (ア) ~ (ウ) について誤っているものを1つ選び、記号で答えなさい。

(ア) エカチェリーナ1世 — ペテルブルクに遷都した。

(イ) フリードリヒ2世 — 啓蒙思想家のヴォルテールを招き交流した。

(ウ) マリア=テレジア — 七年戦争でプロイセンと戦った。

問8 下線部⑥に関連して、オランダ中継貿易の発展を受け、1609年に発刊されたグロティウスの著作は何か。答えなさい。

問9 下線部⑦について、下の資料は、東インド会社についてのCさんのメモである。メモ中の(ア) ~ (ウ) に入る語句を答えなさい。

オランダの東インド会社 1602年設立。東アジア貿易の独占
 他にも… イギリスの東インド会社… (ア) 年に設立
フランスの東インド会社…1604年に設立
 →フランスの東インド会社は当初上手くいかなかったが、フランス王
 (イ) 治世下の財務総監(ウ) によって1664年に再建される。

問10 下線部⑧について、オランダで活躍した画家で、「夜警」を制作した人物の名前を答えなさい。

模範解答

問1	(1) カルヴァン	(2) ホラント	(3) ユトレヒト		
	(4) ネーデルラント連邦共和	(5) メアリ1世	(6) 統一		
	(7) アムステルダム	(8) 航海			
問2	ウ	問3	カール5世	問4	ウ
問5	オーストリアのハプスブルク家とフランスのブルボン家 (25字)			問6	イ
問7	ア	問8	海洋自由論		
問9	(ア) 1600	(イ) ルイ14世	(ウ) コルベール		
問10	レンブラント				

問5は2点。それ以外は1点。 計20点